

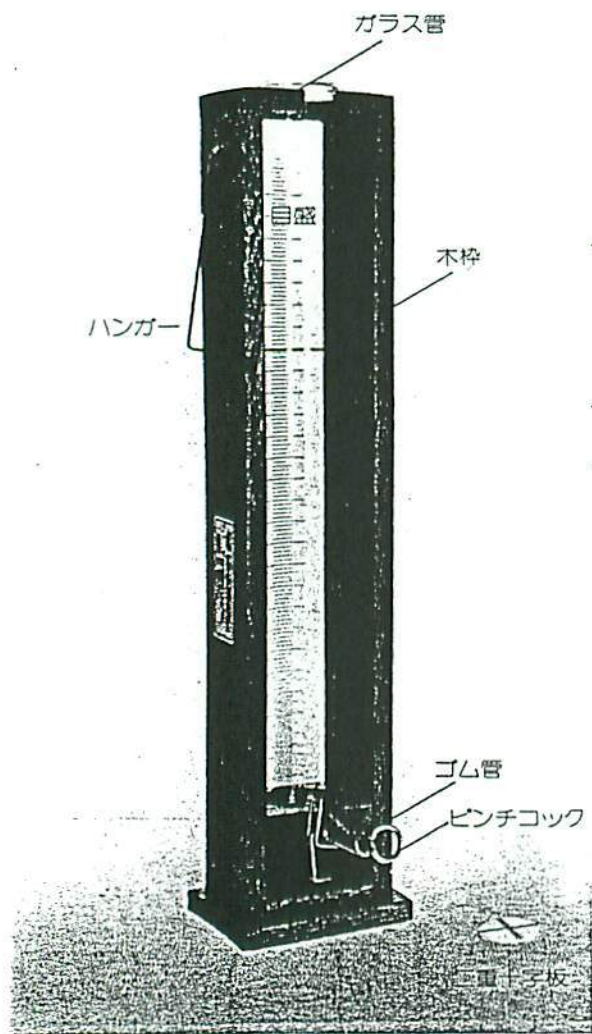
透視度

- 放流水の透明の程度を知る。
- BODを推定する。
- 浄化槽の機能が良く果されていれば、良好な状態となる。

検査器

JIS透視度計 (JIS K0102)

検査器の説明

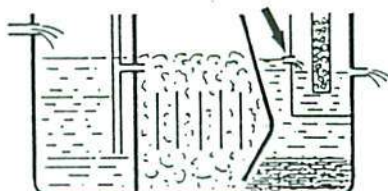


検査場所

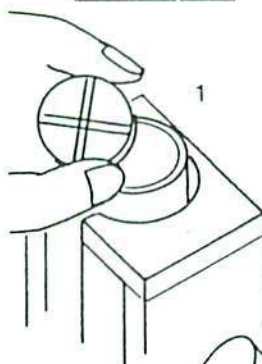
消毒室へ入る直前の処理水を採取

望ましい状態

5cm以上

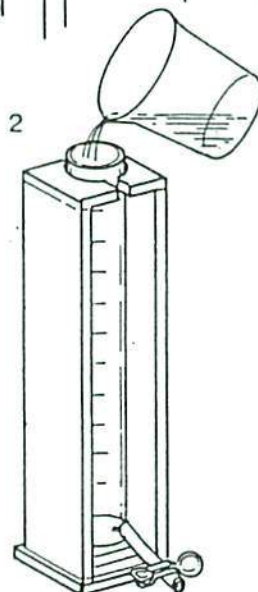


検査方法

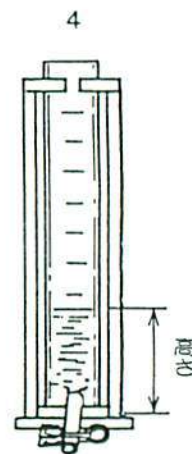


- 1 ガラス管の底に二重十字板を落し込む。
- 2 試料水を滴す。
(ピンチコックを締め忘れないように)
- 3 直射日光を避けて、明るい日陰にセットする。
- 4 コックをゆるめ、水をすみやかに流し出す。
- 5 二重線が始めてハッキリ見えたら止め、残った水の高さを読み取る。

※ 数回繰り返し、平均値とする。



目盛を読む



判定

放流水の透視度が5cm以下は不適當です。
単独処理の場合、腐敗タンク型は7cm程度 ばつ気型は5cm程度が、BOD 90mg/l以下に相当します。

注意事項

シリンダーおよび十字板をきれいな水で良く洗い、水をふきとっておく。

第6節 透視度

透視度は、試料の澄明の程度を示すもので、透視度計の上部から透視し、底部に置いた二重十字標識板がはじめて明らかに識別できるときの水層の高さを読みとり1cmを1度として表す。

同一種類の下水では、透視度は浮遊物質、BODなどと相関を示す場合が多いが、その程度は、下水の種類、性質、処理方法などによって異なる。

器具

透視度計 図2-12のように、高さ32cm^{注1}、直径3.3~3.5cm、底部から5cmの高さまで0.5cmごとに、5cm以上30cmまで1cmごとに目盛をした下口付の平底ガラス円筒で、底部に二重十字標識板をつけてあるもの。

注1 透視度計の高さは、必要に応じて50cmあるいは100cmのものを使用してもよい。

試験操作 試料を透視度計に満たし、上部から底部を透視しながら下口から試料を速やかに流出させ、底部の二重十字が、はじめて明らかに識別できるときの水層の目盛を読み、これを透視度とする。透視度の測定は、周囲の明るさ、光源の種類によって非常に影響を受けるので、原則として昼光のもとで直射日光をさけて行う。

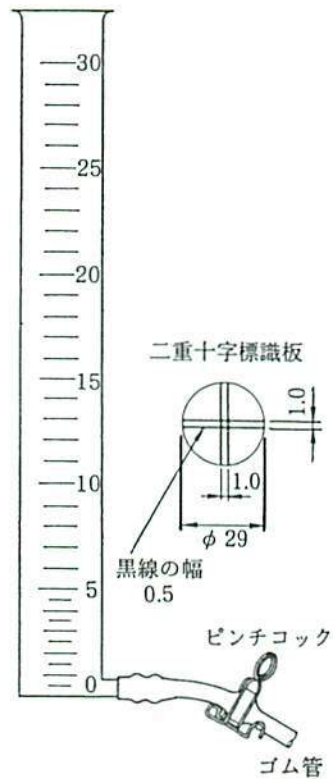


図2-12 透視度計